

事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社萩・森倫館

事業名称 1：山・森・木材で遊べる場づくり事業（森への入り口、遊び・体験を生み出す場としてフィールド整備）

あらすじ

かつて賑わいのあった市民の森である「田床山」を再び整備し、気軽に・身近に自然資源に触れる機会を提供することで、私たちの暮らしを支える自然資源の価値を再認識し、森と共にある暮らしの普及啓発や、地域資源循環の根底となる考えの定着を図る。

ストーリー

里山文化の衰退による森へ関わる機会の減少、木質空間住宅の衰退による林業事業者・木材加工事業者の減少により行き届かない森林整備、などといった状況により豊富な森林資源があっても使い方・関わり方がわからない状況にある。木材を中心とした森林資源および自然資源が保全され循環していくためにも、自然資源への価値を再認識する機会を提供し根底となる考えの定着を図る。ポイントは「まず山に、森に、木材に触れてみる・遊んでみる」と、カジュアルな関わり方から、木・森に関心人口を増やしていく。価値観が醸成されることで、自然資源だけでなく、地域・地球・環境への影響など、異なるレイヤーやより広域な循環などへの波及も期待できる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	森と共生するまちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・低未利用施設リニューアル、活用に対する行政の合意 ・指定管理業務内容の改正 ・持続可能な森林公園経営の仕組みづくり ・担い手の発掘 ・インフラ整備
②課題	森・環境への低関心、放置林	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	私達の暮らしを支える自然資源の価値を再認識し、自然資源との付き合い方を学ぶ・考えるきっかけを作り、共に森林の整備・活用を進めるため	
④地域資源	かつて整備された森林公園「田床山」、田床山指定管理者の存在、街と森との近接性、豊富な森林資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	田床山内にある施設を管理する「指定管理者制度」を利用し、山の整備・森林公園の認知拡大を図る。従来の単なる施設管理維持だけでなく、森林空間を利用したサービス（焚き火体験、ハンモック貸出、森林ツアーなど）に積極的に取り組み、利用客や共に整備活動を担う関係者を増やす。	
⑥担い手（Who）	萩・森倫館、萩市林政課、森林組合、地域住民、観光関連事業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	気軽に訪れられる森林空間の整備⇒山・森で遊ぶ・体験できる機会⇒環境へ配慮した暮らし・木のある暮らしへの動機、自然保全活動参加への動機	<ul style="list-style-type: none"> ・林政課、観光課 ・森林サービスに知見のある方 ・地元の山に詳しい住民
⑧事業で生じる成果	持続可能な親山・森林空間の実現 森林空間で稼げる事業の基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・観光関連事業者

事業名称 2 : 木のある暮らし価値創造事業 (林業・木・木材を暮らしに取り入れる、触れる・購入する)

あらすじ

森と人との距離を再び近づけ森と共生する暮らしを実現するため、川上～川下の事業者で連携し木・木材の高付加価値化を行う。地域に豊富にある森林資源を活用した木製品・森林サービスの企画・販売をすることで、事業者間の対話・協働の機会を増やし、森林資源の循環を通じた持続可能な林業・木材加工産業の実現を目指す。

ストーリー

市域の約 8 割を森林が占めているが、素材生産量の減少や木材・木製品の事業所の減少など衰退傾向にあり、持続的な森林資源の活用ができていない状況にある。また、周辺地域の生産・流通の大規模化で地域産材としての価値は埋没しつつあり、地域材の購入場所も限られている。暮らしの中でカジュアルに木と関わる機会や地域材を購入できる窓口を増やすため、まちの中に拠点を設け、川上～川下事業者と連携し地域材を活用した商品の企画販売や情報発信を行う。地域の事業者と共に6次産業化を進めることで連携を強化し、地域の森林資源活用による経済循環を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	森と共生するまちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 加工設備の導入、もしくは設備保有事業者の確保 担い手探し 可動式木質空間の貸出やメンテナンス
②課題	地域産材の価値低下、川上～川下事業者の連携不足、入手困難な地域材	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	暮らし (生活) の中でカジュアルに木を使う文化を根付かせることで木の価値を高め、新たな木材利用方法の模索や建築空間での地域産材利用に繋げる	
④地域資源	豊富な森林資源、多様なプレイヤー、観光地としての基盤、地域内で完結する木材生産体制	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	ukishima・可動式木質空間 を木を使う暮らしの研究・情報発信の拠点として開放・活用する。木製品の販売や、DIYを手軽に・身近にするための木工加工機のレンタル・扱い方のレクチャー、地域材が使用された木質空間の展示を行う。また丁寧な管理がされてきた森林資源のストーリーを伝えるため、生産工程を学べるツアー (生産地ツアー、間伐体験) の企画販売などを行う。	
⑥担い手 (Who)	森林組合、製材所、工務店、木作家、萩・森倫館	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	購買・利用機会増⇒山～まちの森林資源好循環⇒継続的な林業・木材加工産業の実現	<ul style="list-style-type: none"> 木材加工事業者 素材生産者 萩市林政課、商工振興課
⑧事業で生じる成果	森林資源の地域内循環 木材流通事業者間の対話促進・連携強化 山・森と関わる人が増える	

事業名称 3 : 木育事業 (木で育む、森・木と共に暮らす原体験)

あらすじ

地域には豊富な森林資源があるが、その価値は体感的に理解されておらず、手入れの行き届かない森林の増加、担い手不足が課題である。自然遊びや木質空間での体験を通じ、子供の頃から木と森に親しみ、人と、木や森のかかわりを考えられる心を育んでいく。また子供の成長を通じ大人へも学びの機会を提供し、森とともにある暮らしが地域に根づく未来へとつなげる。

ストーリー

生活様式の変化から暮らしの中で木や森と触れ合う機会が減り、周囲に豊富な森林資源があってもその価値を体感する機会が失われつつある。暮らしと森林・林業のつながりの体感的理解から、豊富な地域資源の存在の認識へ繋げることで、森林資源だけでなく地域への愛着を醸成する。地域特性を活かした教育の実践は、域内・域外の子育て世代にとっても魅力となり、U・Iターン希望者の創出、また住まいとして木造住宅・里山賃貸住宅の施工などにつながることも期待できる。地域産材を活用し、産業や業種を超えて地域の事業者が連携することで、風土・文化・伝統・技術の継承・循環を促す礎となる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	森と共生するまちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・事業による効果の検証方法、評価指標 ・担い手探し
②課題	森・環境への低関心、空き家・町並み保存、担い手不足、技術・伝統文化存続の危機	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域に豊富にある森林資源の価値を子供の頃から体感的に認知してもらうため。また木育を通じて子供たちの豊かな心を育む教育実践のため。	
④地域資源	豊富な森林資源、教育文化の歴史的背景、歴史的な建築物・まちなみ	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	森林の中での自然観察や、木製玩具での遊び体験、木を使ったものづくりから、木質空間での暮らし体験など、子供の頃から木や森に親しむ機会を提供する。具体的には、保育園・幼稚園での木育の実践、森の中での遠足・遊びを行い、子どもたちの感性を育む。また子供が過ごす空間 (園・住まい) の木質化を事業者と連携して行う。	
⑥担い手 (Who)	教育機関、市役所、工務店、製材所、林業従事者、職人	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域資源として森林・木の価値認知⇒自然資源の利用増加、地域への愛着・誇り醸成⇒山～街の木材資源循環、将来の担い手候補⇒持続可能な地域産業の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関 ・児童館、NPO ・環境教育に知見のある方
⑧事業で生じる成果	風土・文化・伝統・技術の継承 担い手増 シビックプライド向上	